THREE HIGH ANNUAL REPORT

OMOU

2022

THREE HIGH
CO.,LTD. SINCE 1990

株式会社スリーハイ
THREE HIGH CO.,LTD.

住所：〒224-0023 神奈川県横浜市都筑区東山田 4-42-16
TEL ：045-590-5561
FAX ：045-590-5571
www.threehigh.co.jp

non VOC ink 植物UV
GREEN PRINTING JFPI P-A10032
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C000000

INDEX

代表あいさつ 1P
会社紹介 2P
スリーハイの「ステークホルダー経営」 4P
- お客様を、どこまでも想う 6P
- 地域を、どこまでも想う 10P
- 働く仲間を、どこまでも想う 14P
- 未来を、地球を、どこまでも想う 18P
SDGs達成貢献に向けた取り組み 22P
価値創造プロセス 24P
2022年活動まとめ 26P
会社情報
- 会社概要・組織体制・沿革 28P
- 財務情報（貸借対照表） 30P
- 表彰、認証・認定 32P
第三者コメント 33P

【本誌の編集について】
・報告期間：2022年1月～2022年12月
※一部の情報については2023年1月以降の情報も含む
・報告対象組織：株式会社スリーハイを基本としています。
・発行日:2023年4月
・CREDIT：取材・原稿制作　今尾江美子（ケイスリー株式会社）
デザイン・イラスト　臼井亮介（合同会社KESHIN）

私たちの「ステークホルダー経営」とは、自ら開き、対話をすること。

株式会社スリーハイは、横浜市都筑区東山田にある小さな町工場です。
「ものを想う。ひとを想う。」を経営理念とし、主力商品である産業用ヒーターの製造・販売を通して、お客様の「熱」に関する困りごとを解決することで、日本だけでなく、世界の産業活性化に貢献しています。これまでに約7,500社の「熱」に関する課題を解決してきました。あわせて、2013年からは、「地域とともに生きる」ということに真剣に向き合い、「こどもまち探検」をはじめとする活動をスタートさせました。さらに、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の認知の高まりを受け、当社の活動をSDGsの文脈から見直し、目標設定や発信に取り組んでいます。

「なぜ、スリーハイはここまで公開・発信を重視するのか?」というご質問をいただくことがあります。その理由は、当社が工場と住宅が混ざり合う準工業地域に立地していることにあります。
「住宅街にある町工場」は、地域との信頼関係がなければ事業を継続できません。信頼関係をつくるには、私たちの方から工場を開き、顔を合わせながら対話を続けること。その地道な積み重ねによって、今の当社と地域の関係性が築かれてきたと考えます。

2020年、当社は創立30周年を機にリブランディングを実施し、「ステークホルダー経営」を目指すべき方向性として掲げました。当社は、顧客や仕入先、地域、従業員、金融機関、行政など、あらゆるステークホルダー（関係者）とともに、大きな社会の一員として存在しています。ステークホルダーと良い関係を築くことで、はじめて良い事業を築くことができます。良い関係を築くためには、まずは財務・非財務を含め、当社のありのままをお伝えしていくことが欠かせないと考え、たどり着いた答えです。
昨年は、これまでの活動をまとめ、スリーハイが社会に提供する価値をご説明する「サステナビリティレポート2021」を発刊しました。幸いなことにたくさんの方に読んでいただくとともに、改善に向けたご助言もいただきました。改めて、感謝申し上げます。
この2冊目となる2022年版は、当社の社員が広く作成に関わったほか、経営情報開示が中小企業でもスタンダードになることを見据えて、財務内容の公表にも挑戦しています。

これからも、当社はステークホルダーの皆様とともに歩み、本業を通じた社会・環境の課題解決に資する取り組みを一層推進して参ります。
今後のスリーハイに、どうぞご期待ください。

2023年3月
株式会社スリーハイ
代表取締役 男澤誠

経営理念（ミッション）

ものを想う。ひとを想う。

ものに魂を宿し、関わる人たちに想いを届けていく。
それが、私たちのミッションです。

ビジョン

世界中の「温めたい」に応えていく。

「熱の困りごと」を解決すること。
創業以来、一つ一つの「困りごと」を全力で解決し、お客様が笑顔になる瞬間を、たくさん見てきました。
「熱の困りごと」は、世界中にある。その一つ一つを全力で解決し、世界中に笑顔を増やしたい。
それが、私たちのビジョンです。

バリュー

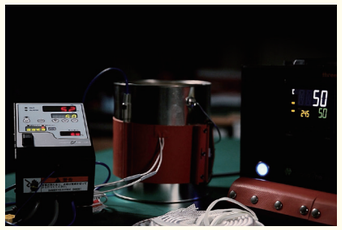
「温める」をつくること。

「ものづくり」を通じて、私たちと関係するすべての人たちを、どこまでも、温めていくこと。
取引先、地域、従業員、その家族。そこにつながる、たくさんの人たち。
みんなの心が温まる体験を、この手で、生み出していくこと。
それが、私たちのバリューです。

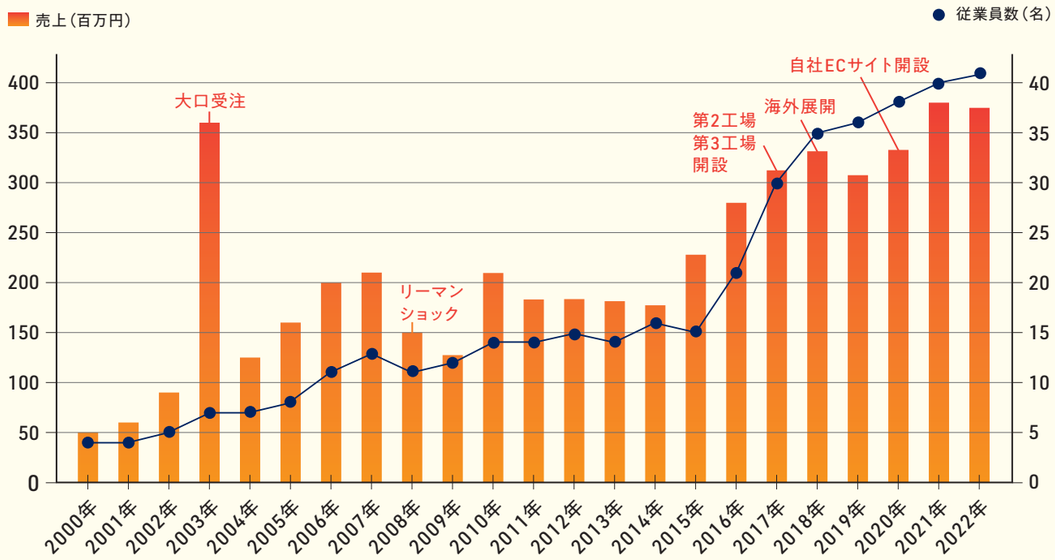
事業分野

社会のインフラを支える、ヒーターソリューションカンパニー

1990年の設立以来、産業用電気ヒーターの製造・販売を中心に事業を展開してきました。ヒーターと一言でいっても、シリコンラバーヒーター、ベルトヒーター、マントルヒーターなど様々です。お客様の目的や用途に応じた最適なソリューションをご提案・ご提供しています。私たちは、製品を通して、お客様の心を温める製品やサービスを提供したいと考えています。



売上と従業員数の推移



顧客

お客様を、どこまでも想う

私たちの仕事は、お客様の「熱の困りごと」を解決すること。誰よりも早くかけつけ、誰よりも親身に解決策を考えたい。笑顔になってもらいたい。そして、お客様とどこまでも温かい関係を築いていきたいのです。

→ 6P-9P

地域

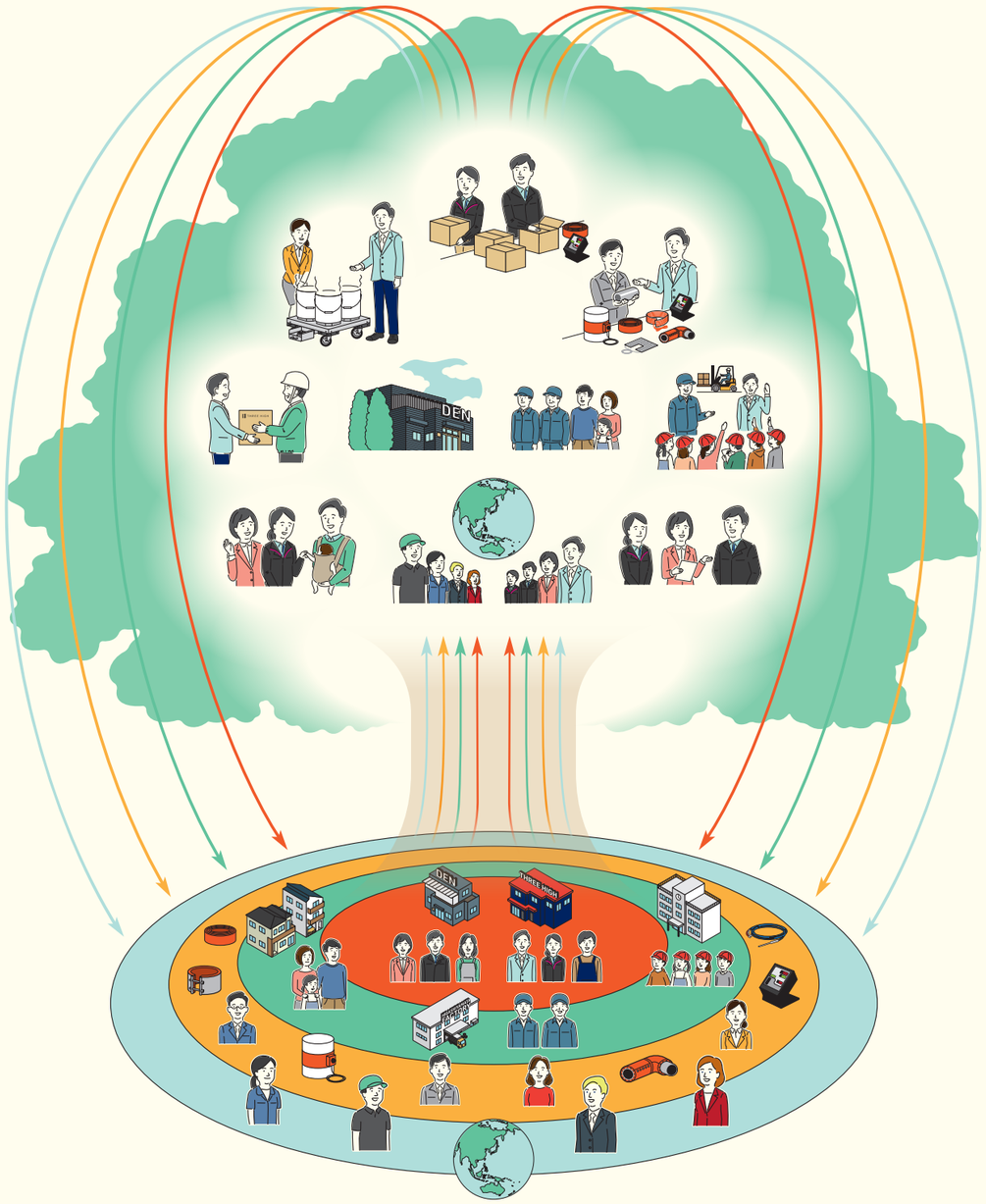
地域を、どこまでも想う

「住宅街にある町工場」である私たちは、地域で暮らす人々との信頼関係がなければ、この場所で事業を続けることができません。2013年から、様々な活動を通じて、地域との温かい関係を築いています。

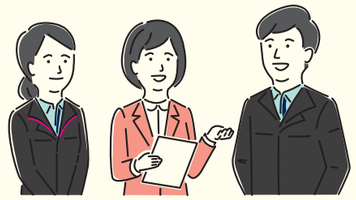
→ 10P-13P

ステークホルダーを どこまでも温める。
その想いは、巡り巡って やがてみんなを温める。

私たちの事業は、あらゆるステークホルダーとの関係で成り立っています。ステークホルダーとともに、良い事業をつくりたい。良い社会をつくりたい。だからまず、ステークホルダーを温める。その想いは、地域に、社会に広がって、やがて大きな木となり、みんなを温めるはずだから。



従業員



働く仲間を、どこまでも想う

働く仲間は、最も身近なステークホルダー。スリーハイは、みんなにとっての居場所となり、安心して力を発揮できる場でありたい。お互いを想い、周りを想う。そんな仲間が集い、成長しつづける場でありたいと考えています。

→ 14P-17P

未来 地球

未来を、地球を、どこまでも想う

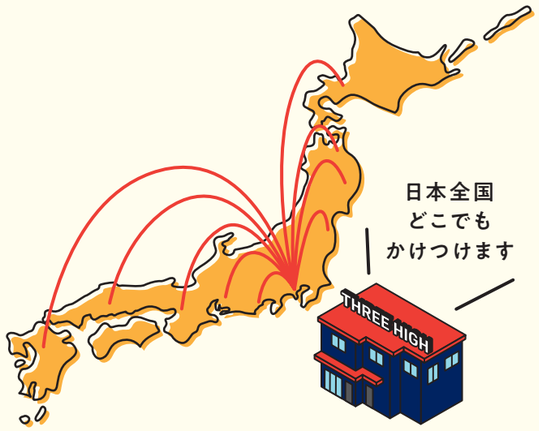
私たちは「ものづくり」の会社です。大半はオーダーメイドで、1個から手づくりをしています。そんな「ものづくり」の温かさを、世界に未来に伝えたい。そう願いながら、今日も目の前の「もの」に向き合っています。

→ 18P-21P

ヒーターづくりを通して、お客様の心まで温めたい。

熱に困ったらスリーハイ。そんな存在になりたい。

私たちは、熱で困っているお客様のもとに、まずかけつけ、ともに解決策を考えます。
お客様の困りごとに、誰よりも早く、誰よりも親身になって応えたい。そして、お客様の心を温めたい。「熱で困ったら、スリーハイ」。私たちは、そんな存在になりたいと願っています。

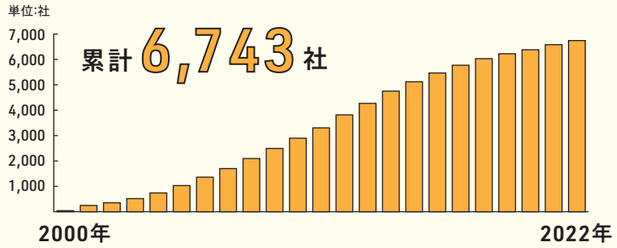


私たちに寄せられる「熱」の困りごと

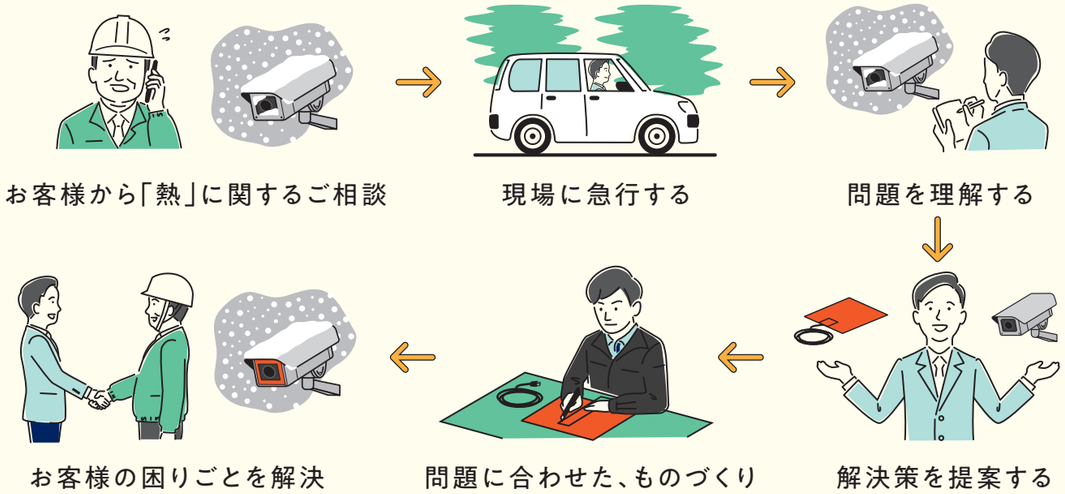
私たちのもとに寄せられるご相談の一例です。
中には、ヒーターが解決策になるとは知らずにご相談されるお客様もいます。

- 配管の温度が下がってしまう
- 電気代を節約したい
- 塗料がうまく溶けない
- 雪を溶かしたい
- 蒸気で目の前が曇ってしまう

新規顧客数（2000年～）



お客様を「温める」流れ



お客様からの声

遠方のため、他の会社には訪問を断られたけれど、スリーハイはすぐに現場にかけつけてくれて、とても安心しました。

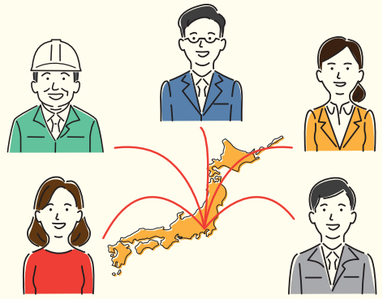
食品加工業 Aさん

これまでは、自前のドライヤーで配管を温めて応急処置をしていたが、もっと早くスリーハイのヒーターを知っていれば、安全に、楽に温めることができたのに。

製造業 Tさん

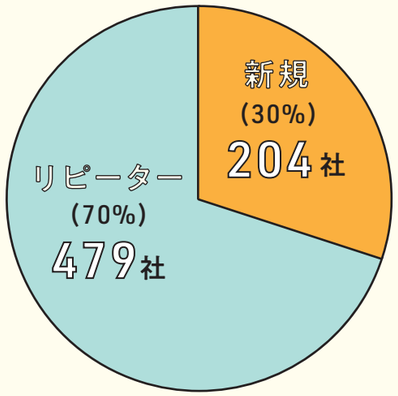
温めるお客様を、広げていく

2022年は、これまでにも取引があるお客様（リピーター）に加え、30%を占める新規のお客様にも、温かさを届けることができました。
販売チャネルは、従来の対面によるオーダーメイドを中心としながらも、新たなチャネルであるECが着実に成長しており、新しいお客様との接点づくりにつながっています。

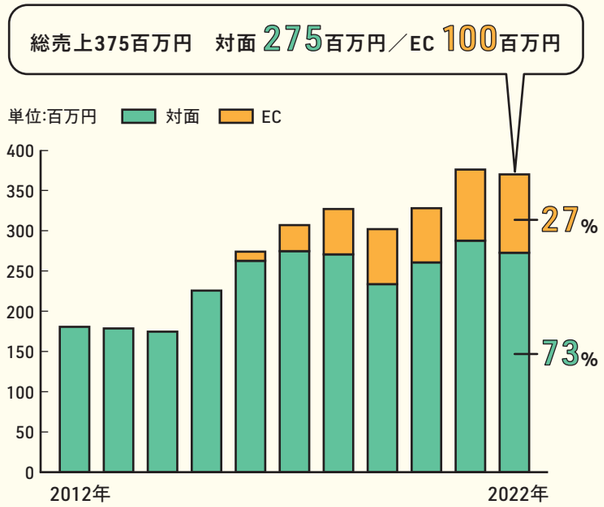


取引先数（2022年）

合計683社



販売チャネルの内訳（2012年～）



お客様との接点を、コツコツと増やす

課題のある現場へかけつける。お客様にものづくりの現場を見ていただく。
その積み重ねが、温かい信頼関係につながると私たちは信じています。

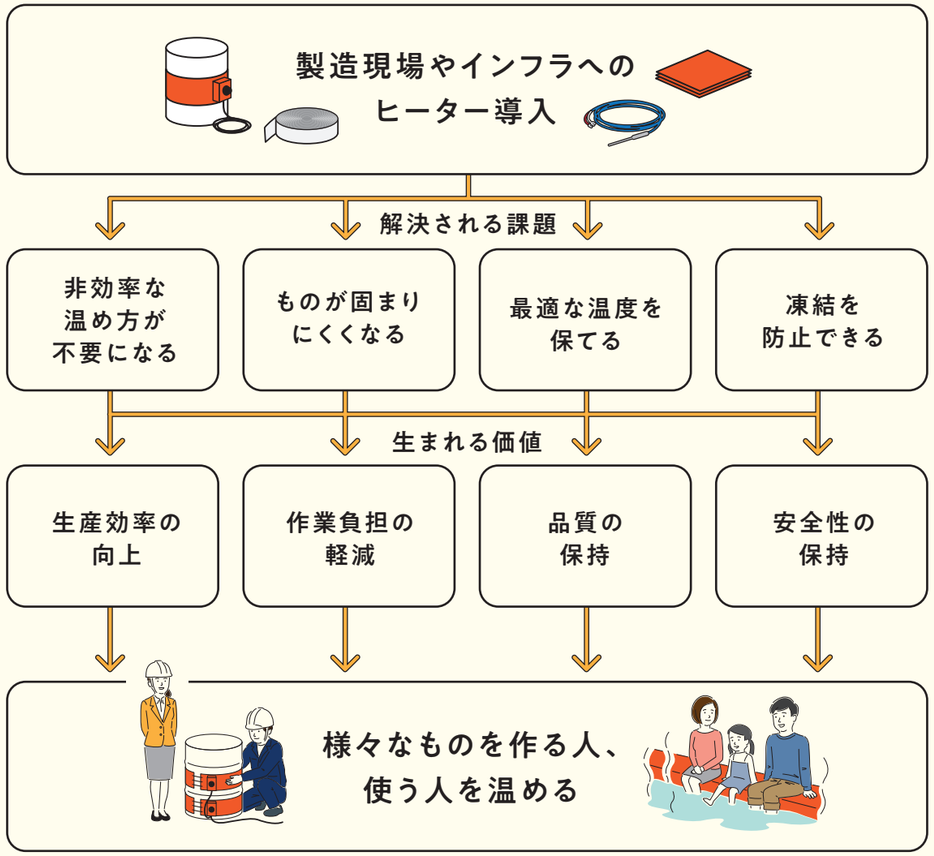
来社人数（2014年～）

のべ3,000名

ヒーターの先に、「温かさ」を生み出していく

ヒーターを製造・販売することが私たちの使命ではありません。ヒーターを通して、様々な現場の課題を解決し、「温かさ」という価値を生み出していくこと。
それがスリーハイの使命です。

ヒーター導入によって生まれる様々な価値



私たちはこれからも、ヒーターの先にある現場や人を、どこまでも想いながら、一人一人のお客様、一つ一つのヒーターに、向き合っていきます。

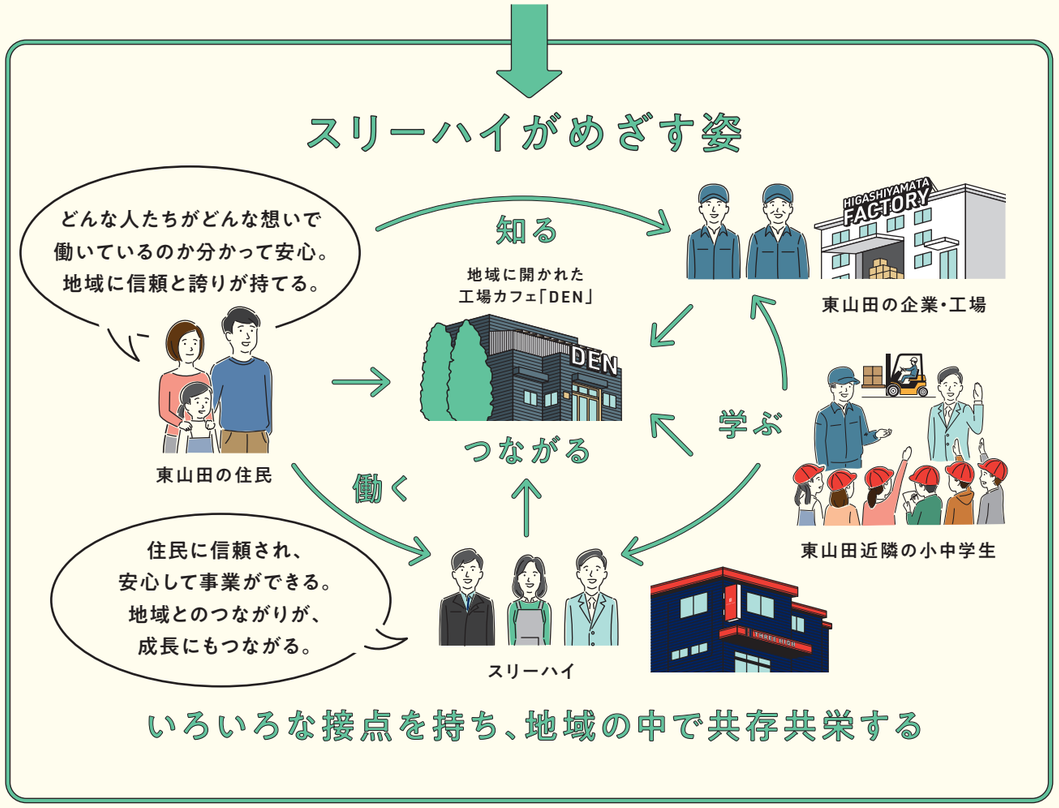
地域に温かさを循環させたい。
それは巡り巡って、
自分たちに戻ってくるものだから。

地域とともに生きる町工場

私たちは、横浜市都筑区東山田の準工業地域にある、小さな町工場です。この地域には、70ほどの工場が集まっています。以前はもっと多かったのですが、廃業や移転などで徐々に減少。工場があった土地には新しい家やマンションが建ち、ここに移り住む人が増えました。
いつしか私たちは「住宅街にある町工場」に。そこでは地域との信頼関係がなければ事業を続けていくことは困難です。だから私たちは「地域とともに生きる」ということに真剣に向き合い、取り組んできました。

準工業地域の一般的な姿

スリーハイがめざす姿



いろいろな接点を持ち、地域の中で共存共栄する

2013年からは毎年、近隣小学校の生徒たちが地域の町工場を訪ね歩く「こどもまち探検」を開催しています。
地域で暮らす人たちが、スリーハイを「働く場」として選んでくれるようにもなりました。
2017年には、地域に開かれた工場カフェ「DEN」をオープン。地域の多様な人や組織をつなぐ拠点としての役割を担いつつあります。
住民からの信頼を得るために続けてきた地道な活動は、いまやスリーハイの大きな資産となっています。
地域に生かされている会社として、温かさが巡りつづける地域の一員であり、起点でありたいと願っています。

スリーハイと地域とのつながりは、「こどもまち探検」と「DEN」を柱として展開してきました。

こどもまち探検

地域の子どもたちに、ものづくりの魅力を知ってほしい。この地域で働く大人たちの姿を知ってほしい。そして、自分たちの夢を広げてほしい。そんな想いで、2013年から毎年、東山田地区の小学生を招いて地域の工場を巡る「こどもまち探検」を実施しています。

参加した子どもの数

2022年
180名
2013年以降
のべ**1,780名**

実施回数

2022年
3回
のべ
20回

参加している工場の数

2022年
20社
（うち6社を訪問）
2013年開始時 **1社**

成果

地域への愛着や
ものづくりへの関心が高まる

成果

お互いに顔が見える関係、
信頼関係が築かれる

成果

自分たちの仕事への誇りや
やる気が高まる

働く人と暮らす人の間に、温かさが循環する地域に

「こどもまち探検」から発展した活動

大人を対象にした
「おとなまち探検」
2022年5回開催
（40名参加）

小学生以外も参加できる
「オープンファクトリー」
2022年3回開催
（20名参加）

工場カフェ「DEN」

2017年、地域に開かれた工場として「DEN」をオープン。自社の工場の一つであると同時に、お客様や地域の人たちにとって、ものづくりを間近に見られる場、交流する拠点にもなっています。

2022年の主な活動

子ども向けロボットプログラミング講座

学校への行きづらさを抱える児童・生徒のケアは、地域の重要課題の一つです。そこで福祉法人（東山田地域ケアプラザ）と連携し、ロボットプログラミングを教える講座を開催。子どもたちにとって、家庭でも学校でもない「サードプレイス（居心地のよい第三の場）」になりつつあります。

東山田食堂と助け合いごはん

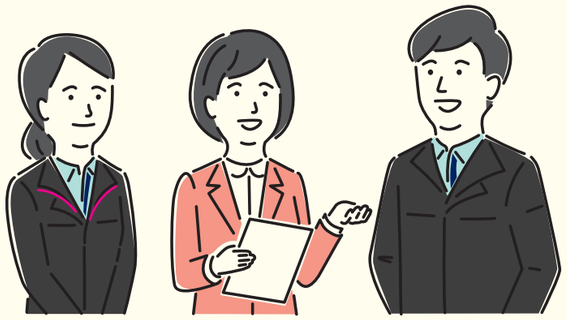
2022年10月より毎月「東山田食堂」をオープン。地元農家や食品メーカー、飲食店から規格外や廃棄予定の野菜や食品を提供していただき、地元フードコーディネーターが作ったお弁当を販売しています。そして売上の一部を使い、様々な事情で生活に困っている方たちに低価格でお弁当を届けます。それぞれの困りごとを助け合いで解決し、関わるみんなが温かくなる仕組みです。

DEN のこれから

いまやDENは東山田のランドマークとなり、多くの方たちに知ってもらい、出入りしてもらうようになりました。お客様はもちろん、行政、住民、工場、学校、NPOなど、地域の様々な主体とつながれる存在として、これからもっと地域のために「活用される」場になったら嬉しいです。

「一人ひとり違う」を力に。スリーハイで働く仲間たち。

お客様を温めること、地域を温めること、関わるすべての人たちを温めること。そのためには、まず自分たちが温かい組織であること。一人ひとりの違いを認め合い、互いを想い合い、力を引き出し合う。みんなが居場所があると感じ、安心して力を出し切れる。働く仲間にとって、スリーハイはそんな場でありたいと考えています。



従業員数

スリーハイの従業員は、12年で10倍に。パート・アルバイト・嘱託の採用も増え、多様な力がものづくりを支えています。

2000年 4名 ➡ 2010年 13名 ➡ 2022年 40名

社員:17名　パート・アルバイト・嘱託:23名

年齢構成（全社員17名）

スリーハイでは多くの若手が活躍。ものづくりの未来を支える人材を育てています。

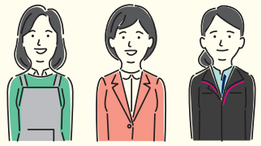
20代 6名　30代 5名

40代 3名　50代 3名

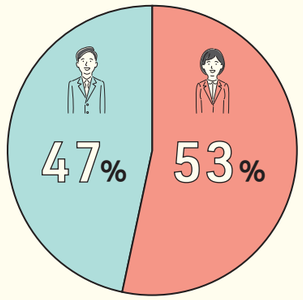
※データはすべて2022年12月末時点

男女比

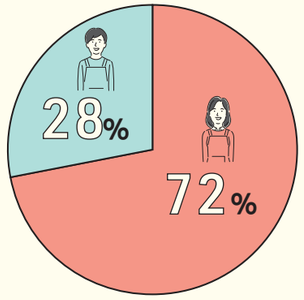
工場の一般的なイメージと異なり、女性も多く活躍しています。そのうち3名がリーダーを務めています。



男女比（社員）



男女比（全従業員）



女性の産休・育休取得率

100%

男性の育休取得率:100%
（1名:2週間取得）

復職率

100%

子育て世代

6名の社員が未就学児・小学生の子を持つパパママです。パート従業員も子育て経験を持つママがほとんど。だから、急な子どもの体調不良や学校の行事などのためのお休みにも、「お互い様」の精神でサポートし合う環境があります。2022年12月には、男性社員が約2週間の育休を取得しました。

障がい者 “challenged”

2017年から障がいを持つ方を仲間に迎え、2022年末現在、3名が活躍しています。決して補佐的な業務ではなく、「ミシンが得意」「細かな作業が得意」といった各人の強みを生かして、ものづくりの一翼を担う大事な戦力として活躍しています。

インターン生

ものづくりに関心のあるすべての人にとって開かれた場でありたい。常に外からの新しい風が吹き込む組織でありたい。そんな想いから、インターン生の受け入れを積極的に行っています。2022年は、現地実習として7名を受け入れました。うち2名は、初めての児童養護施設の子どもたち。またオンラインでの翻訳や現地調査業務には、タイとベトナム国籍の学生2名を受け入れました。

一人ひとりが安心して自分らしく力を出し切り、みんなで「温める」をつくり続けていくために。

スリーハイでは、4つの側面から組織づくりに取り組んでいます。

★ 2022年に導入したもの

働きやすい環境をつくるための取り組み

- 確定拠出年金401K導入 ★
- 全員19時退社を促進 ★
- テレワーク制度の導入
- フレックスタイム制の導入
- 勤務間インターバル制度
- 法定以上の手厚い有給休暇

成果

柔軟な働き方が

「大事である」と回答した従業員 **80.5%**

「実現できている」と回答した従業員 **51.2%**

（全従業員の意識調査より）

心身の健康を守るための取り組み

- 「健康経営優良法人」の取得 ★（健康診断・メタボ検診受診率100%）
- 健康管理委員会の設置 ★
- メンタルヘルス責任者を配置 ★（メンタルヘルス・マネジメント®検定試験合格者）
- 安全衛生推進者を2名配置（2022年に1名から2名に）
- ハラスメント対策責任者を配置

これからの組織づくり

2022年から「関わるすべての人に スリーハイを通じて最高の体験をしてもらおうじゃないか」をスローガンに掲げています。これを実現すべく、良質な働く環境を維持していくことが重要です。個の成長こそが企業の成長と捉え、これからも継続して風通しの良い組織づくりをめざします。

コミュニケーションを円滑にするための取り組み

全従業員の意識調査を実施 ★

仕事や職場に対して、従業員がどう考え、感じているかを知るためのアンケート調査を、2022年に初めて実施。今後も継続しながら、従業員の心の変化を捉えつつ、対話に基づく組織づくりをめざしていきます。

シャッフルランチ

通常は何かとみんなで集まる機会が多かったのですが、コロナ禍でその機会が減少。それを補うために、従業員からの発案で始まりました。感染対策の下、2022年は全員が1回は参加できるかたちで実施しました。

成果

良好な人間関係が

「大事である」と回答した従業員 **90.2%**

「実現できている」と回答した従業員 **61.0%**

（全従業員の意識調査より）

スキルアップを支援するための取り組み

マネジメント層向けリーダーシップ研修	年間1回開催 6名参加
社員向け自立型人材育成研修	年間1回開催 6名参加
会社のお金の流れを学ぶアクティブ研修 ★	2022年1回開催 全員参加

成果

参加者の声

- 部下の業務にもっと関わることが必要だと感じた。毎日１回はメンバーに声がけを行いたい。
- 相手を受け入れ、理解しようとする心がけの大切さを感じた。まずは自分から行動をして背中を見せたい。
- お金のことから目を背けず、みんなで話し合うことで問題が見えた。
- すぐに取り組めそうなことがたくさんあった。コミュニケーション、チームワークを大切にして全員で取り組みたい。

「ものづくりの想い」を未来へ、世界へ。

スリーハイの製品は、大半がオーダーメイド。1つから丁寧に手づくりしています。その「ものづくり」には、ものを想い、人を想う、温もりが宿っています。どんなにテクノロジーが発達する未来でも、その大切さはきっと変わらない。スリーハイは「ものづくり」を担う会社として、それを未来に、世界に伝え、残していきたいと考えています。

「ものづくり」を未来へ

地域の小中学校やNPOと連携し、子どもたちに「ものづくり」の魅力を伝えつづける活動をしています。

2022年の主な活動

こどもまち探検

6月	横浜市立東山田小学校
9月	横浜国立大学付属横浜小学校

職業講話

夢★らくざプロジェクト主催「おしごとなりきり道場」に参画。近隣の中学生を対象に「チョコレート工場に対して最適なヒーターを提案しよう」というロールプレイゲームを実施しました。

6月	川崎市立宮前平中学校（2回）
9月	横浜市立菅田中学校（2回）

工場インタビュー

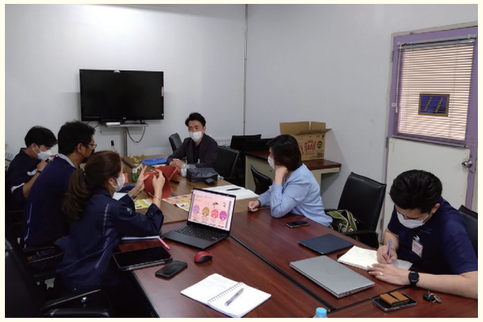
毎年「こどもまち探検」に参加している東山田小学校の子どもたち。2022年11月には、東山田準工業地域エリアマップの更新に向け、約70社ある工場をチームに分かれて訪問し、インタビューを実施。スリーハイのメンバーも同行し、必要に応じてサポートしました。

クラフトワークショップ@DEN

2022年6月、「モノつくりを通した自分発見の機会」を提供するクラフト・ミー主催のワークショップを開催。地元小学校の親子4組、美術部中学生9名と先生が参加して、シリコンスポンジなどの廃材を活用した自由な創作を楽しんでもらいました。

日本の「ものづくり」を世界へ

2020年に「海外事業部」をつくり、海外展開を視野に入れてきました。2022年は、タイで開催されたアジア最大級の製造加工・包装総合展「ProPak Asia 2022」、ベトナムで開催されたベトナム最大級の国際工作機械・金属加工関連見本市「METALEX Vietnam 2022」に出展。発展が進む東南アジアの製造業などで、私たちのヒーターに対するニーズがあることを肌で感じることができました。
「熱」の困りごとは、世界中にある。その一つ一つに応えて、日本から世界に、「魂を宿すものづくり」を伝えていきたいと考えています。



世界に向けた、これから

世界には196の国があります。当社製品が使用されているのは、まだ数カ国に過ぎません。世界中の「温めたい」に応えるグローバルニッチトップ企業をめざし、提案力、細やかな対応、当社しかできないものづくりを、これからも展開していきます。

地球環境の未来を守り続けるために。

いまや気候変動への対応は、すべての企業がではありません。地球の資源を使い、ものづくりできることを考え、実践していきます。

取り組むべき課題。それは小さな工場でも例外をする私たちが、地球環境の未来のために

製造プロセスを通じた取り組み

ヒーターの製造・販売という私たちの事業が、環境に与える負荷。それらをできるだけ抑えるためにできることを考え、取り組んでいます。

温室効果ガス排出削減

2022年3月に、3つの工場のうち2カ所の電気を再生可能エネルギーに切り替えました。これにより、全体の99%が再生可能エネルギー電気となり、大幅なCO_2排出削減につながりました。

2022年	CO_2排出量	前年比
再生エネ利用率 99%	185kg	99.15%減

ISO運用強化

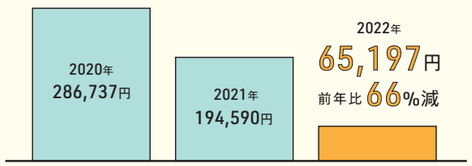
スリーハイはISO9001とISO14001を取得しています。ISOの運用を通じて、品質向上と環境負荷低減の取り組みを強化するため、2022年は内部監査員を2名追加。また、全社員での運用体制をめざし、社内研修を継続しています。

廃棄物削減

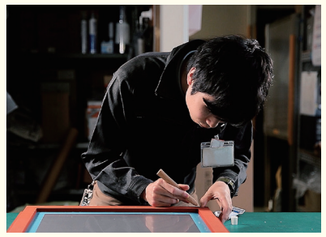
ものづくりの過程で発生する廃材をオンラインショップでの販売や学校への寄付などをし、廃棄削減に取り組んでいます。

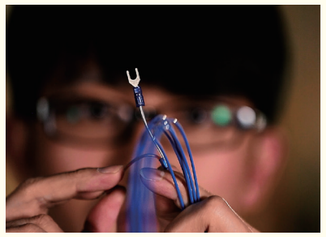
段ボールの再利用

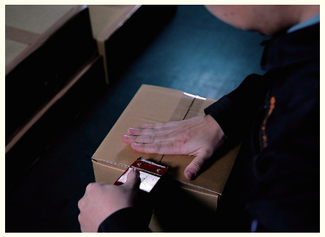
段ボール購入費



2019年より、原材料や資材を受け取る段ボール箱を当社製品の納入に再利用しています。その結果、2022年の段ボール購入費は前年比66%減となりました。





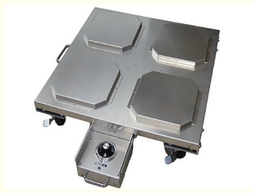


製品開発・提案を通じた取り組み

私たちのヒーターを使うことで、お客様のエネルギー消費が削減できる。そんな可能性を広げる製品の開発や提案に取り組んでいます。

GOEMON-150

食品会社や建築会社から「工場での加工・作業時に缶内の液体（アスファルト、オイル、塗料、チョコレート…）を一度に温めたい!」という声をいただき、生まれたのが「GOEMON-150」です。最大4缶の一斗缶やペール缶を1つのヒーターで加熱でき、消費電力の削減にもつながります。



従来 1缶=380W
↓
GOEMON
1缶=100W（最大74%減）　4缶=400W

&FIBERS by HOTOPIA®

「&FIBERS」は、糸一本一本を発熱させる特許技術を活用した布状ヒーター。軽量で柔軟性・伸縮性・耐久性が高いことから、環境負荷の低い「温かさ」を可能にします。スリーハイは、この世界初の技術の活用可能性を広げる取り組みをしています。

シリコンスポンジ

現在、ヒーター設置の際にはシリコンスポンジとの併用を積極的に提案しています。シリコンスポンジは、気体や液体を通しにくく、断熱性・保温性が高い製品。ヒーターからの放熱防止だけでなく、加熱時間の短縮、ひいては電気使用量の削減につながります。

鍋の周りに巻き付けたヒーターの上からシリコンスポンジを巻いた場合（弊社による実験）

加熱時間 33%削減
電気使用量 44.8%削減
↓
CO_2排出量 年間約 54%削減

中小企業のこれからにとって、SDGsは必須のテーマ。

全世界が協力して2030年の達成をめざす「持続可能な開発目標（SDGs）」は、経済・社会の一員である当社にとっても重要な課題です。企業間でSDGsへの意識が高まるにつれて、今後もサプライチェーンの一部でありつづけるために。また、人々の社会・環境に対する価値観が変化する中で、次世代に選ばれつづけるために。今後ますます重要なテーマになると捉えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

これまでの取り組み

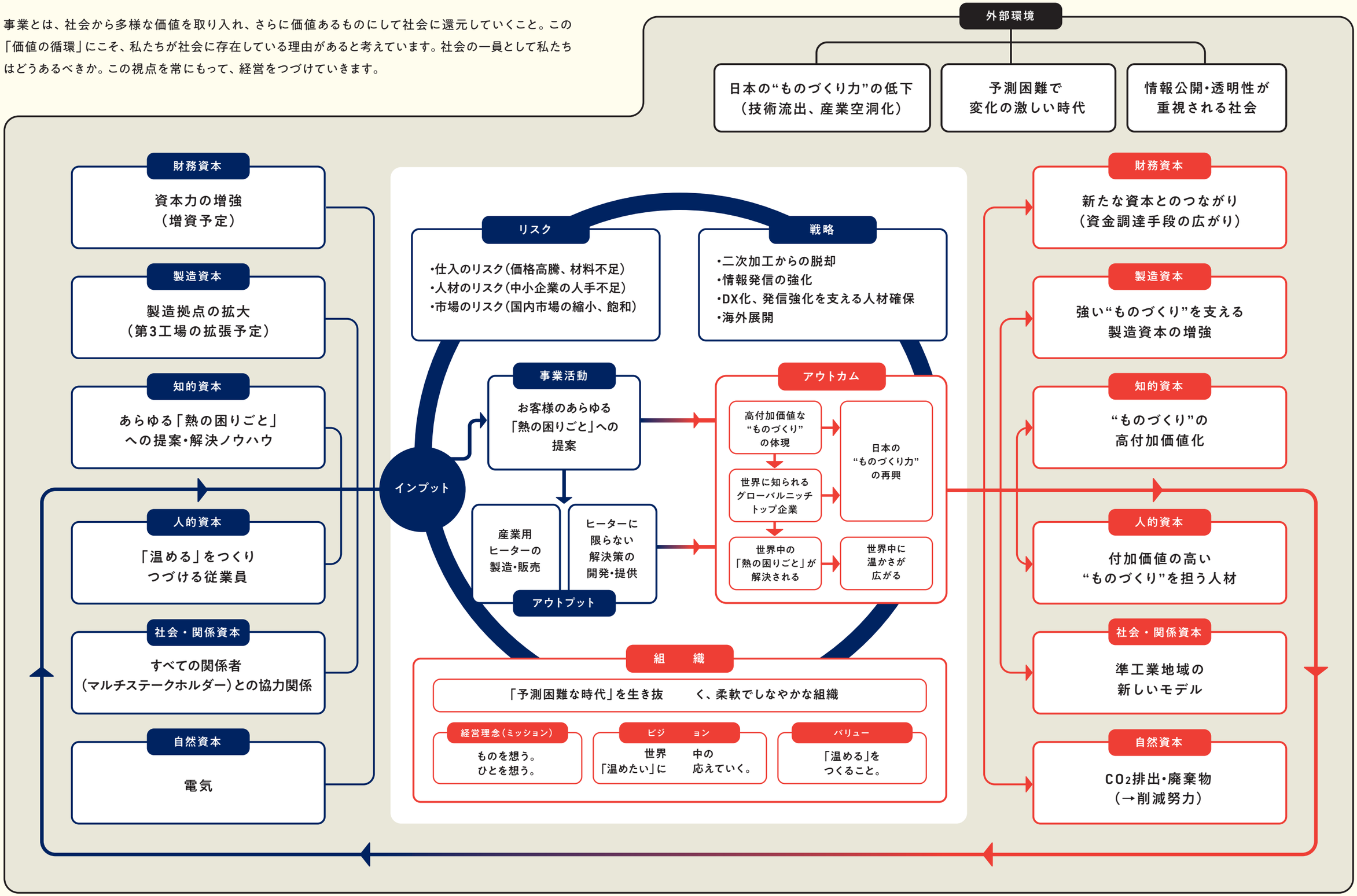
2019年	全従業員向けSDGs社内勉強会開催
2020年	「かながわSDGsパートナー」登録
2020年	神奈川県「SDGs経営に向けた中小企業伴走型支援事業」採択（SDGs事業計画書及びSDGsアクションプランの作成）
2021年	横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs（上位Superior）」に認定
2022年	サステナビリティレポート発刊

当社のSDGs達成貢献に向けた取り組み

ステークホルダー（関係者）	アクティビティ（活動）	アウトプット（結果）	アウトカム（効果）	ゴール（めざす状態）	貢献するSDGs（ゴール／ターゲット）
顧客	徹底したお客様目線での課題発見と独自提案	「熱」に関する課題解決 - 売上高（3.75億円） - 出荷数（39,080台）	多くの社会インフラに活用される製品の開発・製造	顧客に支持されつづけている - 顧客満足度の維持・向上	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 9.1
	国際基準に適合した品質・環境マネジメント	ISO9001及びISO14001の認証取得と継続	ものづくり企業として、より良い地球環境を次世代に残す	品質・環境マネジメントが継続的に改善されている	12 つくる責任 つかう責任 12.4
地域	地域課題の解決拠点としての工場カフェ「DEN」の活用	地域と連携した取り組み - 東山田食堂 - プログラミング講座	地域住民と企業が、お互いに安心して暮らせる／働ける環境を築く	DENが地域に活用されつづけている	11 住み続けられるまちづくりを
	子どもたちの未来をひろげる「こどもまち探検」の継続	「こどもまち探検」の継続実施 -のべ開催回数（20回） -のべ参加人数（1,780名）	子どもたちに、ものづくりの魅力や働く楽しさを伝える	多くの子どもたちに価値が届けられている - 2030年時点のべ参加人数（3,000名）	4 質の高い教育をみんなに 4.4
従業員	女性も活躍できる環境整備	意思決定への女性の参画 -従業員の女性比率（72%） -管理職の女性比率（60%）	女性の視点が会社経営に生かされる	女性が意思決定の場に参画している	5 ジェンダー平等を実現しよう 5.5
	地域住民の積極的な採用	地域住民の雇用 -従業員の地域住民比率（48%）	職住近接によりワーク・ライフ・バランスが向上する	地域に雇用を提供できている	8 働きがいも経済成長も

価値創造プロセス

事業とは、社会から多様な価値を取り入れ、さらに価値あるものにして社会に還元していくこと。この「価値の循環」にこそ、私たちが社会に存在している理由があると考えています。社会の一員として私たちはどうあるべきか。この視点を常にもって、経営をつづけていきます。



参考ガイドライン：「国際統合報告<IR>フレームワーク」を参考にしています。

2022年活動まとめ

様々な活動を通じて、すべてのステークホルダーとの信頼関係を深めると同時に、
新たなステークホルダーとのつながりも広げています。

2022年 / ステークホルダー

顧客

- 1月 「テクニカルショウヨコハマ2022」出展
- 2月 「ヘルスケアIT 2022」出展
- 2月 「鉄道技術展・大阪　Mass-Trans Innovation Japan Osaka 2022」日本シール様（株）と共同出展
- 3月 「Medtec Japan 2022」出展
- 6月 新製品「テクヒーター」発売開始
  ※テクヒーターは積水化成品工業株式会社の登録商標です。
- 8月 ISO9001、ISO14001認証 更新
- 9月 「スマートファクトリーJapan 2022」に出展
- 10月 「北陸技術交流テクノフェア2022」に出展
- 10月 新製品「フィルムヒーター」発売開始
- 11月 「神奈川がんばる企業エース2022」認定

地域

- 2月 神奈川大学 オンラインインターンシップ実施
- 3月 一般社団法人夢★らくざプロジェクト 出前道場①
- 3月 中学硬式野球の藤沢リトルシニア様に青色のポールガードを寄贈
- 6月 横浜市立東山田小学校 こどもまち探検
- 6月 スリーハイ初となるサステナビリティレポート『Sustainability Report 2021』を発行
- 6月 桜美林大学堀潔先生ゼミ生 訪問
- 6月 メイドインつづき 廃材活用イベント参加
- 8月 Y-SDGs認証事業者ミーティング参加
- 8月 横浜国立大学付属横浜小学校こどもまち探検
- 8月 相模女子大学金森剛先生ゼミ スタディーツアー
- 8月 一般社団法人夢★らくざプロジェクト 出前道場②
- 8月 横浜市立東山田中学校 課題解決型プログラム
- 8月 東山田食堂スタート

従業員

- 1月 社員2名入社
- 2月 「健康経営優良法人2022（中小規模法人部門）」認定
- 3月 社員1名入社
- 3月 BCPマニュアル策定
- 4月 社員1名入社
- 6月 会社のお金の流れを学ぶ アクティブ研修実施
- 6月 リーダーシップ研修実施
- 6月 全従業員の意識調査
- 8月 総合防災訓練
- 8月 確定拠出年金401K導入
- 8月 全員19時退社を促進
- 8月 かながわ健康企業宣言「健康づくり取組み企業」に認定
- 8月 障がい者雇用で1名パート入社
- 10月 第34期スタート

未来・世界

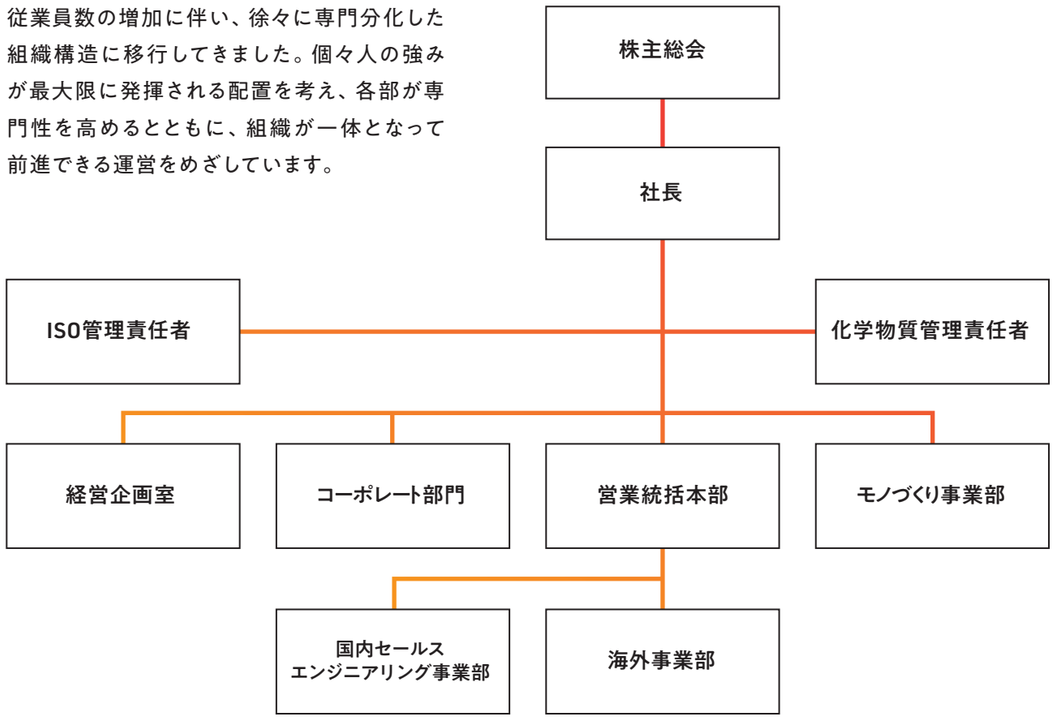
- 2月 新ブランド「&FIBERS」スタート
- 3月 本社・第2工場のエネルギーを再生エネルギー100%に切り替え
- 6月 タイ・バンコクで開催されるアジア最大級の製造加工・包装総合展「ProPak Asia2022」出展
- 6月 海外版オリジナルオンラインショップ開始
- 6月 ベトナム最大級の国際工作機械・金属加工関連見本市「METALEX Vietnam 2022」出展
- 8月 資本金を1,000万円増資
- 10月 JICA ベトナム経営者が視察訪問
- 10月 JICA 2022年度 日系社内研修員 視察訪問
- 11月 タイ語版公式HP開設
- 11月 タイを訪問し現地経営者と交流

会社概要

商号	株式会社スリーハイ
創業	1987年
設立	1990年
資本金	2,000万円
代表取締役	男澤 誠
事業内容	産業用電気ヒーターの製造・販売
取引銀行	三井住友銀行 溝ノ口支店 横浜信用金庫 高田支店
所在地	（本社、第2工場、第3工場） 本社:〒224-0023 神奈川県横浜市都筑区東山田 4-42-16 TEL:045-590-5561 FAX:045-590-5571
従業員数	40名（2022年12月時点）

組織体制

従業員数の増加に伴い、徐々に専門分化した組織構造に移行してきました。個々人の強みが最大限に発揮される配置を考え、各部が専門性を高めるとともに、組織が一体となって前進できる運営をめざしています。



沿革

1987年	創業者（先代）が個人事業主として川崎市で創業 ヒーターの製造販売開始
1990年	神奈川県川崎市に株式会社スリーハイ本社を設立
1997年	・ペール缶、一斗缶ヒーター「K-11」を発表　・ドラム缶ヒーター「K-21」を発表 ・ドラム缶ヒーター「K-22」を発表　・4、6リットル缶ヒーター「K-31」を発表 ・温度コントローラ「THC-15」を発表
2001年	「シリコンスポンジ」取扱開始
2002年	・「リボンヒーター（テープヒーター）」を発表　・「シリコンコードヒーター」を発表　・「シリコンベルトヒーター」を発表
2003年	・「ボンベヒーター」を発表　・ペール缶、一斗缶ヒーター「K-11W」を発表　・ドラム缶ヒーター「K-21W」を発表 ・ドラム缶ヒーター「K-22W」を発表　・ミニ缶ヒーター「K-31W」を発表
2004年	本社を現在地（横浜市都筑区東山田）に移転
2005年	ISO14001取得
2007年	ISO9001取得
2009年	代表取締役に男澤誠が就任
2010年	・温度コントローラ「monoOne-100/100T」を発表　・「横浜型地域貢献企業」に認定 ・メイドインつづき認定企業　・文部科学省キャリアガイダンスに参画
2011年	・「神奈川県優良工場表彰」を受賞　・温度コントローラ「monoOne-200」を発表　・「横浜知財みらい企業」に認定
2012年	・セメンティングスポットヒーター「MASANORI」を発表 ・PSE対応型ドラム缶ヒーター「K-21W-PSE」を発表 ・PSE対応型ペール缶、一斗缶ヒーター「K-11W-PSE」を発表 ・温度コントローラ「monoOne-120/120T」を発表
2013年	温度コントローラ「monoOne+」を発表
2014年	・「かながわ中小企業モデル工場」に認定　・「第8回かながわ子ども・子育て支援大賞特別賞」を受賞
2017年	・業務拡大につき第2工場 カフェ&ファクトリーDENをオープン ・「かながわ中小企業モデル工場」に認定　・「神奈川がんばる企業エース2017」に認定 ・一斗缶、ペール缶用底面ヒーター「GOEMON-100」を発表
2018年	「横浜型地域貢献企業プレミアム企業」に認定
2020年	・「かながわSDGsパートナー」に認定 ・内閣府特命担当大臣表彰「子供と家族・若者応援団表彰（子供・若者育成支援部門）」を受賞 ・温度コントローラ「monoOne+B」「monoOne+W」を発表 ・「WANIヒーター」を発表 ・「ヌカ玉バスター」を発表
2021年	横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs（上位Superior）」に認定
2022年	・資本金を2,000万円に増資 ・「健康経営優良法人2022（中小規模法人部門）」に認定 ・「神奈川がんばる企業エース2022」に認定

2022年9月30日現在

<資産の部>		<負債の部>	
科　目	金　額	科　目	金　額
単位	円	単位	円
【流動資産】		【流動負債】	
現金及び預金	29,490,356	買掛金	11,525,515
受取手形	9,552,637	未払費用	1,805,625
売掛金	47,323,160	未払金	477,688
たな卸資産	499,501	未払法人税等	191,700
仕掛品及び半成工事		未払消費税等	4,497,400
仕掛品	499,501	預り金	1,468,950
前払金	201,100	流動負債	19,966,878
未収入金	1,320,000		
貸倒引当金	▲455,006	【固定負債】	
材料	31,115,590	長期借入金	
流動資産	119,047,338	長期借入金	108,461,000
		固定負債	108,461,000
【固定資産】			
有形固定資産		<負債>	128,427,878
土地	58,200,000		
建物	5,014,014	<純資産の部>	
建物付属設備	978,098		
機械装置	1,739,278	【株主資本】	
工具器具備品	1,254,283	資本金	20,000,000
有形固定資産	67,185,673	資本剰余金	
無形固定資産		資本準備金	2,500,000
ソフトウェア	5,210,205	資本剰余金	2,500,000
電話加入権	74,984	利益剰余金	
無形固定資産	5,285,189	その他利益剰余金	
投資その他の資産		別途積立金	12,500,000
出資金		繰越利益剰余金	40,201,981
出資金	2,020,000	その他利益剰余金	52,701,981
差入保証金	50,500	利益剰余金	52,701,981
敷金	879,500	株主資本	75,201,981
積立保険金	9,161,659		
投資その他の資産	12,111,659	<純資産>	75,201,981
固定資産	84,582,521		
<資産>	203,629,859	<負債純資産>	203,629,859

財務情報を掲載して、どこまでも透明性を高めていく。

今号より、レポート内に貸借対照表を全文掲載することにしました。非財務だけでなく財務も開示する目的はステークホルダーに会社の財政状態や安定性、成長性をきちんと説明できなければならないと思ったからです。覚悟を持ってこれからも透明性を高めてまいります。
33期（2022年9月期）は、材料不足、仕入高騰のため、営業利益含め、厳しい一年となりました。貸借対照表については、自己資本比率を上げるため、借入金を一部返済し、さらに1,000万円増資し、資本金2,000万円としました。一方、現預金が月商1ヵ月分で着地したため、来期改善の方向で調整中です。棚卸資産回転率は、約12回となっています。引き続き在庫管理をしっかりと行いながら、さらなる効率化を図ります。

株式会社スリーハイ 代表取締役 男澤 誠

スリーハイは、財務に対する姿勢についても軽々と常識を超えました。

会社法では、中小企業であっても、貸借対照表の要旨（全部で 15 項目程度）の開示が最低限の情報開示として義務化されています。しかし、実態としては、中小企業の多くは外部に財務内容を開示していません。財務諸表は、会社経営の成績表です。自分自身が何人の人と成績表を共有していたか思い出してみれば、スリーハイが貸借対照表の全項目を公開することの覚悟を感じることができると思います。従業員や取引先、金融機関はもとより、地域や社会全体に対して、自らの責任を果たそうという覚悟です。

今期の貸借対照表と社長のコメントで、注目すべき点は二つです。一つ目は、原材料費の高騰などによる利益への下押し圧力です。価格転嫁や効率化、コスト削減で、今後どれだけ吸収できるかが注目されます。二つ目は、借入金を返済し、自己資本を増強したことです。多少の凸凹はあるものの、スリーハイの売上は、2010 年代半ばから拡大基調にあり（p.3 参照）、海外展開も徐々に進んでいます。今後も一定の資金需要が見込まれるため、この段階で財務体質を強化したことはプラスに評価できます。

PROFILE
依田真美
相模女子大学大学院 社会起業研究科 教授
株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ 取締役（社外）
株式会社横浜銀行 取締役（非業務執行）
外資系金融機関で日本の産業・企業分析を担当後、スタンダード&プアーズにて事業会社・公的部門格付部部長、証券化本部長などを歴任。その後、地域活性化に携わるため北海道大学大学院に進学。日本証券アナリスト協会認定アナリスト。MIT スローン経営大学院修了、修士（経営学）。北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院修了、博士（観光学）。

2022年に認定　神奈川がんばる企業エース 2022

新サービスの提供や、新商品を開発して売上を伸ばした企業など、ビジネスモデルの革新を成功させた企業を県が認定する制度です。
自社ECサイトの構築、他社ECサイトへの自社製品の掲載をきっかけにECサイト部門を設立。24時間オンライン会議の予約を受け付けるなど、他社との差別化を実現したことが評価されました。「神奈川がんばる企業」のうち、ビジネスモデルの独創性や地域への貢献度等が特に優れていると認められる企業に贈られる「神奈川がんばる企業エース」の受賞は2017年以来2度目となりました。

2022年に認定　健康経営優良法人 2022（中小規模法人部門）

地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する経済産業省の制度です。スリーハイの喫煙率は0%と極めて低く、健康診断の受診率は100%と従業員の健康第一の経営を行っています。

継続　かながわ中小企業モデル工場

製造業として、現下の経済状況に即応した、柔軟な経営体制が確立されているか、県税の納付（入）状況、環境関連手続きの状況、公害発生の有無、公的貸付金の返済状況、不当労働行為の有無、労働災害の発生状況、その他労働基準の確保処置等を確認するとともに、企業財務について良好であると認められる企業を認定する制度です。

継続　横浜型地域貢献企業（最上位認定）

横浜市民を積極的に雇用している、市内企業との取引を重視しているなど、地域を意識した経営を行うとともに、本業及びその他の活動を通じて、環境保全活動、地域ボランティア活動などの社会的事業に取り組んでいる企業等を、一定の基準の下に「横浜型地域貢献企業」として認定し、その成長・発展を支援する制度です。

継続　かながわ治療と仕事の両立推進企業

がん治療が必要になった従業員が、働きながら治療を続けられるように、治療と仕事の両立に資する休暇制度や勤務制度を整備している企業を神奈川県が認定する制度。時間単位有休、傷病・病気休暇制度、フレックスタイム制度など、所定の項目を満たしている企業が認定されます。

継続　かながわSDGsパートナー

SDGsの取り組みを実施し、公表している企業、NPO、団体、大学を「かながわSDGsパートナー」として神奈川県が登録し、連携することで県内のSDGsに関する企業、NPO、団体、大学の取り組みを促進させることを目的としています。工場と住宅が混在する準工業地域で、地域住民の理解を深めるため運営を開始した、弊社製品のショールーム兼コミュニティカフェ「DEN」等の取り組みが評価され登録されました。※スリーハイは、第3期に登録されています。

継続　横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs（上位 Superior）」

SDGsに取り組むことで、持続可能な経営・運営への転換、新たな顧客や取引先の拡大、さらには、投資家や金融機関がESG投資等の投融資判断への活用につなげることをめざした横浜市の制度です。スリーハイは、【上位（Superior）】の認定を受けています。

継続　横浜知財みらい企業

知的財産活動を通じて経営基盤を強化し、未来に向けて成長を志向する企業を、さらなる発展をめざして横浜市が認定・支援する制度です。「事業計画」、「知的財産活動の目的・位置付け」、「知的財産活動を実践する仕組み」、「知的財産活動の事業への貢献」の面から評価し、一定水準以上の企業が認定されます。

本報告書は、昨年発行された『Sustainability Report 2021』に続き、スリーハイの 2022 年の活動成果を明らかにしたものです。『Annual Report OMOU2022』へと装いを新たにしたことで、中小企業においても、より情報開示を行うことで社会的責任を果たしていこうとするスリーハイの主体的意思を宿したものとなっています。

寺本明輝
株式会社浜銀総合研究所
顧問・特任コンサルタント
中小企業診断士

[今回の取り組みで高く評価できる点]

- 顧客、地域社会、従業員に向けた継続的な活動により、各ステークホルダーとの関係の質が高まり、確かな成果につながっている点は高く評価されます。
- 新たな成長機会を創出すべく、海外展示会・見本市の出展、海外版のオンラインショップの開設など海外展開の布石を投じたことが読み取れます。
- 今回初めて財務諸表（BS）を公開することで、非財務情報と財務情報を一体管理していくための第一歩を踏み出したものと理解されます。

[取り組みの進捗を評価しつつ、今後にさらに期待したい点]

- 6 つの資本のうち、製造資本と知的資本に関する取り組みの記述が若干少なく、例えば、前回のレポートで掲げた「生産工程の DX 化」「技術の向上と均一化」などの課題の進捗具合が伝わりにくくなっています。
- 対峙する社会・環境課題の解決に重心を置きつつも、もう少し事業戦略や組織能力の観点を取り入れ、価値創造のストーリーを説明するとより充実したものになると考えられます。
- マルチステークホルダー経営の観点から、顧客、地域社会、従業員に加え、サプライチェーンの重要なプレーヤーである取引先（仕入先）に対する取り組みも明示していく必要があると考えます。

最後に、改めてスリーハイの「温める」活動に敬意を表するとともに、さらなる価値の創造を期待しております。

「ものを想う。ひとを想う。」という経営理念を製品・サービスを通してステークホルダーに提供していることがわかるレポートとなっている。ステークホルダーを「顧客」、「地域」、「従業員」、「未来・地球」という 4 つの視点で整理し、それにより企業活動を詳細に開示している。さらに、やわらかい色合いとイラストでやさしく読者にアプローチしていることも想いを伝える姿勢を感じる。それは『OMOU』という題名からもわかる。

鶴田佳史
大東文化大学
社会学部社会学科教授

価値創造プロセスでは、国際統合報告フレームワークを参考として、スリーハイの事業活動が提示され、事業活動が生み出す企業価値と社会価値とその関係性が一覧できるように図式化され記載されている。この価値創造プロセス図は、スリーハイのバリューである「“温める”をつくること」を反映しており企業の姿勢が明確になっている。また、前年度は「社会資本・自然資本」が一つの項目でまとめられていたが今年度は「社会・関係資本」「自然資本」の項目に分け提示していることからも経営の可視化が進展していることが感じられる。マテリアリティにもとづいてステークホルダー経営と価値創造プロセスが作られているが、マテリアリティの特定プロセスが提示されているとさらに理解が深まると思われる。
SDGs に関する取り組みについても、該当するゴールに加え、ターゲットも提示していることは興味深い。

今回から、財務諸表を公開し統合思考にもとづいた報告となっている。それにともないサステナビリティレポートからアニュアルレポートと改題している。今後も財務情報と非財務情報を統合した報告に取り組むことがみてとれる。統合報告や非財務情報開示のフレームワークが整備されてきている現在、中小企業が統合報告を作成し公開することは高く評価できる。中小企業における非財務情報開示の進展のためにもスリーハイのさらなる活動に期待したい。
本レポートからは、スリーハイの現在、未来、地球への貢献へのあつい想いと本気度が伝わってくる。